

# PMI 日本支部 ニュースレター

Column / 巻頭言 .....	3
Best Practice and Competence / PM事例・知識 .....	4
Activities / 支部活動 .....	18
Review / 書評・論評 .....	21
PM Calendar / PMカレンダー .....	23
Fact Database / データベース .....	24
Editor's Note / 編集後記 .....	28

<b>Column / 巻頭言</b> .....	3
• 新事務局長就任のご挨拶	PMI 日本支部 事務局長 吉田 一弥
<b>Best Practice and Competence / PM 事例・知識</b>	
◆ PMI Japan Festa 2015 全体報告 .....	4
	PMI 日本支部 セミナー委員会 Festa2015 統括プロジェクトマネジャー 近藤 昇久
◆ PMI Japan Festa 2015 セミナーレポート .....	5
• 国境なき医師団(MSF)の組織運営とプロジェクトマネジメント	講師：ジェレミィ・ボダン 氏 PMI 日本支部 セミナー委員会 近藤 昇久
• 東日本大震災(3.11)の津波被害からの奇跡の復活 ～東京電力(株)広野火力発電所4ヶ月間の復旧の取り組み～	講師：青山 亮一 氏 PMI 日本支部 セミナー委員会 川村 祥二
• 子どもが売られない世界をつくるために	講師：草薙 直基 氏 PMI 日本支部 セミナー委員会 豊田 光海
• ゼロ秒思考の実践	講師：赤羽 雄二 氏 PMI 日本支部 セミナー委員会 三好 利昌
• 『ミドリムシが地球を救う!』その戦略	講師：永田 暁彦 氏 PMI 日本支部 セミナー委員会 芳野 剛
• 途上国から世界に通用するブランドをつくる	講師：山口 絵理子 氏 PMI 日本支部 セミナー委員会 豊田 光海
• 目をOFFにして、心をONに ～ブラインドサッカーから学ぶチームビルディング～	講師：井口 健司 氏 PMI 日本支部 セミナー委員会 玉置 志津
• 第一生命における株式会社化・上場プロジェクト	講師：稲垣 精二 氏 PMI 日本支部 セミナー委員会 野々市谷 有里
<b>Activities / 支部活動</b> .....	18
• PMI 日本支部中部ランチ設立記念セミナー 開催報告	PMI 日本支部 中部ランチ運営委員会 井奈波 誠
<b>Review / 書評・論評</b> .....	21
• PMBOK®ガイド 第5版 ソフトウェア拡張版のご紹介	
<b>PM Calendar / PM カレンダー</b> .....	23
• PMI 日本支部関連セミナー等	
<b>Fact Database / データベース</b> .....	24
<b>Editor's Note / 編集後記</b> .....	28

## ◆ 商標等について

「PMI Project Management Institute」とそのロゴおよび「PMP」、「CAPM」、「PMBOK」、「OPM3」、「Quarter Globe Design」は、米国および他の国で登録されているプロジェクトマネジメント協会のマークであり商標です。プロジェクトマネジメント協会のマークの対象リストについては、プロジェクトマネジメント協会の法務部門へお問い合わせください。「ITIL® (IT Infrastructure Library)」は、英国及び欧州連合各国における英国政府 Cabinet Office の商標又は登録商標です。

## Column / 巻頭言

### ■ 新事務局長就任のご挨拶

PMI日本支部 事務局長 吉田一弥

2015年10月1日付で新事務局長として着任しました吉田一弥です。この場をお借りして新任のご挨拶を申し上げます。

PMIの普及は多くのボランティアの方々の活動に支えられています。着任早々の10月に参加したPMI本部主催LIM 2015 North America、Global Congress 2015 North America、China Congressの三つのイベントで、それを強く実感することができました。いずれのコンGRESSにおいても、世界中から集まった1,000人以上の方々がセミナーを熱心に聴講される中、ボランティアの方々が運営サポートのために広い会場をところ狭しと走り回っているのがとても印象的でした。

続いて11月7日・8日に横浜市の慶應義塾大学日吉キャンパスで開催された「PMI Japan Festa 2015」においても、規模の差こそあれ多くのボランティアの方々が嬉々として活動しておられるさまを目の当たりにしました。特に、本イベントは日本支部セミナー委員会の諸氏が企画・運営・裏方作業の全てを担当している素晴らしい行事であり、同胞として頼もしさを覚えた次第です。

また、11月28日には、日本支部として2番目となるランチである中部ランチ設立記念セミナーに立ち会う機会にも恵まれました。設立準備委員会の方々が本業の仕事の傍ら5年間に亘って設立のために周到に準備を重ね、名古屋大学病院殿からは会場を提供していただくなど多大な支援をいただいで開催にこぎつけたものです。大講堂に150名余が集う中、中部地域の産学官界を代表する3人の方々から中部地



域の活力を感じる貴重な講演を賜りました。中部ランチ設立により、日本支部の地域貢献の足場がさらに強固なものとなりました。

さて、ご承知の通り、世界の中でも高齢化が著しく進む我が国ではプロジェクト・マネジャー自身の高齢化も当然進行しており、その若返り・後進の育成が大きな課題となっています。そのため、個人会員向けサービスやPMI日本支部独自の法人スポンサープログラムの充実はもとより、若年層を対象としたアカデミック分野（教育界）へのプロジェクトマネジメントの普及にも継続して注力していく所存です。

また、PMP資格者がIT産業界に集中している現状に鑑み、私自身の前職の経験も生かしながら、より広範な産業分野への啓蒙を図っていききたいとも考えています。

今後の日本支部の活動にご支援、ご期待下さいますよう、よろしくお願い致します。

# Best Practice and Competence / PM 事例・知識

## PMI Japan Festa 2015 全体報告

PMI日本支部 セミナー委員会 Festa 2015 統括プロジェクトマネジャー 近藤 昇久

2015年11月7日(土)、8日(日)の2日間にわたり、慶應義塾大学日吉キャンパス 協生館藤原洋記念ホールにて、PMI Japan Festa 2015を開催しました。Festaは、通常のプロジェクトマネジメント系のセミナーではカバーされていない、より広範で重要なエリアの情報を提供することにより、参加者の皆さまに幅広い見識を得ていただく機会を提供するというコンセプトで企画しています。

Festa 2015のテーマとして“Lead the Way to New Frontiers ～未開の地へ踏み出し、未来を創造するリーダーたち～”を掲げました。『未開の地』とは何でしょうか？ Festa2015では、世の中から顧みられることがまだまだ少ない国内外の社会的課題に特にフォーカスを当て、社会的課題の解決をミッションとして自らに課し、成功モデルなどもちろんまだない、誰も踏み込んだことのない未開の地に飛び込んで活躍をさせていらっしゃる方々を講師としてお招きしました。

次ページからのセミナーレポートは、Festa 2015を企画・運営したPMI日本支部セミナー 委員が分担して執筆しました。参加いただけなかった方にはぜひ御一読いただき、リーダーの方々の未開の地で奮闘する息遣いを感じていただければ幸いです。また、参加された方も会場で感じた熱気を思い出していただければと思います。

参加者の皆さまから、受講完了報告を通じて寄せられた感想を以下いくつか紹介させていただきます。

『当事者による生の声は具体性かつリアリティに溢れ、多くの気付きや学ぶべきものがあった』

『アントレプレナーやリーダーとしての高い志と覚悟という意味で、どれもプロジェクトマネジメントにつながるメッセージとしてとらえることができました。』

『自分をもっと若い時に、このような話を聞けたら、もっとチャレンジしてやれたかとも思い、若手にこのような話を聞かせたいと、強く感じました』

参加者の皆さまの今後の活動の糧になる新しい発見・気づきを得ていただけたとしたら、企画・運営を担当した者として大変嬉しく思います。

なお、昨年お寄せいただいたご意見をもとに、講演・休憩時間の配分を見直すなど、運営面で改善を施しました。具体的には、昨年と同様に2日間で9PDUのご提供は維持しつつ、2日目(日曜日)の終了時刻を15:35と早め(昨年は17:05)、日曜の夕方をゆっくりと過ごしたい方や遠方からお越しの方に余裕を持っていただけるようにしました。今年寄せられたご意見も Festa 2016 の企画に反映したいと考えています。

来年のFesta 2016は11月5日(土)、6日(日)に同じく慶應義塾大学日吉キャンパス 協生館藤原洋記念ホールにて開催予定です。皆さまと来年また会場でお会いできることを楽しみにしています。



# PMI Japan Festa 2015 セミナーレポート

【Festa2015】 セミナーレポート (K-1)

## ■ 国境なき医師団 (MSF) の組織運営とプロジェクトマネジメント

PMI日本支部 セミナー委員会 近藤 昇久

### 【セミナー概要】

- 開催期日：2015年11月7日(土) 12:00～13:30
- タイトル：国境なき医師団 (MSF) の組織運営とプロジェクトマネジメント
- 講師：ジェレミィ・ボダン氏
- 講師のプロフィール：

特定非営利活動法人国境なき医師団 (MSF) 日本 事務局長

#### 【略歴】

2013年9月よりMSF日本事務局長。およそ20年にわたり、人道援助・開発援助分野に身を置き、サハラ以南アフリカおよび東南アジアなど現場での業務経験も豊富。



### 【はじめに】

7,000人以上の海外派遣スタッフと、約3万1,000人の現地スタッフが、約60の国と地域で、約400の医療人道援助プロジェクトを展開する国境なき医師団 (MSF) (2014年実績)。世界28カ国の事務局に勤務する約2,600人の職員が後方支援として、これらの援助活動を支えています。

本講演ではMSF日本の事務局長を務めるジェレミィ・ボダン氏に、MSFの組織運営とプロジェクトマネジメントについて、活動地・事務局両面から講演いただきました。

### 【講演内容】

#### ● 国境なき医師団の設立背景、活動原則

国境なき医師団 (MSF) は1971年に医師とジャーナリストによって設立されました。創設の目的は、第一に命の危機にある人びとへの緊急医療援助を提供することです。第二に人道危機に対する証言活動、すなわち、医療だけでは命を救うことができない現状を国際社会に証言することです。

MSFは「国境なき医師団憲章」と「10の活動原則」を掲げ、これらに基づいて、苦境にある人びと、天災、人災、武力紛争の被災者に対し人種、宗教、信条、政治的な関わりを超えて、差別することなく援助しています。

「憲章」や「活動原則」でミッションを明文化することによって、関係する多くのスタッフが同じ目標に向かって行動できるようになっています。

#### ● 活動実績、財務実績 (2014年)

エボラ出血熱が発生したギニア、リベリア、シエラレオネで活動し、エボラ治療センターを設けて7,400人の入院患者に対応しました。

その他、グローバルには825万700件の外来診療、51万1,800人の入院患者、8万1,700件の外科手術などを行っています。

経常収益は1,796億円で、収入の90%は民間からの寄付です。

政治や宗教からの独立を担保するために、活動資金を政府や特定の企業・団体に依存しすぎないように資金調達先の工夫をしています。

(詳しくは国境なき医師団日本のホームページ掲載の活動報告書を参照)

## ■ PMI Japan Festa 2015 セミナーレポート

## ● 組織運営、活動プロセス、安全対策

MSFは世界28か国に事務局を持ち、そのうちオランダ、スイス、スペイン、フランス、ベルギーの5か国がオペレーション事務局としてプログラムの運営を担当し、医療チームを編成・派遣しています。その他の事務局はパートナー事務局として、活動に参加するスタッフの募集・派遣、広報活動、募金活動を行っています。

MSFは紛争や大規模自然災害など医療ニーズが発生した地域には48時間以内に現地入りし詳細な医療ニーズの調査を行います。政府や他の団体などによって十分な医療が提供されると判断した場合にはMSFは活動しません。他の団体などで対応できない医療ニーズがある場合、MSFは活動を決定します。医療ニーズがMSFのすべての活動の基準です。

MSFは現地と事務局が連携し、現地調査および情勢分析、現地の全関係者からの理解・受け入れの獲得、武器持ち込み禁止、退避計画を含む緊急時計画の策定といった安全対策を実施しています。MSFの「中立性」「公平性」が安全の基盤です。

## ● MSF日本 4つの戦略目標

MSFの日本事務局では、さらなるグローバルへの貢献のため、次の4つの戦略目標に沿って活動をしています。

1. 医療人道援助活動へのさらなる貢献（資金援助の拡大、現地ニーズに沿ったハイレベル人材の継続的投入、日本の政策・実務者への働きかけなど）
2. MSF内の連携強化（アジア地域でのニーズや新規活動の提案など）
3. 日本社会との関係強化（日本社会における人道的危機

や医療ニーズの認知・理解の向上、多様な支援・参加の拡大など）

4. 組織の進化（事業の効果・効率・危機管理のさらなる改善、MSFグローバルにおける日本発の人材の活躍・貢献など）

## ● 研究・開発ユニットの始動

MSFは、より多くの人命を救うための製品や技術を日本から見つけ出し、実際の医療援助活動に役立てる取り組みを始めています。世界の人道・医療危機に対して、日本の技術が貢献することを期待しています。

## 【講師担当余話】

エボラ出血熱、自然災害、紛争への対応などで国境なき医師団という名前はよく報道されているものの、そのグローバルな組織運営は知られていません。突発的な緊急事態および何年、何十年にもわたる命の危機に対して、現地と事務局がどのようにマネジメントされているか、ボダン氏の講演から新たな気づきをいただきました。講演後の質疑応答も活発で、皆さんの関心の高さがうかがえました。

また、国境なき医師団の現地での活動には普通の人では飛び込むのに躊躇してしまいましたが、ボダン氏のお話をうかがって、組織運営に民間企業のスキルを活かせるエリアがたくさんあるのではないかと思います。

日本の特長を活かしつつ各国との連携を深め、組織全体に貢献するという取り組みをボダン氏が日本事務局長としてリードされているとのお話をうかがい、その成果が実る日を楽しみに待ちたいと思います。

## 【Festa2015】セミナーレポート (K-2)

## ■東日本大震災(3.11)の大津波被害からの奇跡の復活 ～東京電力(株)広野火力発電所4ヶ月間の復旧の取り組み～

PMI日本支部 セミナー委員会 川村 祥二

## 【セミナー概要】

- 開催期日：2015年11月7日(土) 13:45～14:45
- タイトル：東日本大震災(3.11)の大津波被害からの奇跡の復活
- 講師：青山 亮一 氏
- 講師のプロフィール：

東京電力株式会社 日立那珂火力発電所 副所長

## 【略歴】

- 1967年生まれ、茨城県出身
- 1993年 3月 千葉大学大学院(工学部)卒業
- 1993年 4月 東京電力株式会社入社(鹿島火力発電所配属)し、主に運転業務(交替勤務)、発電管理業務に従事
- 2006年 7月 川崎火力発電所当直長兼川崎火力建設所当直長
- 2008年 7月 広野火力発電所発電運営グループマネージャー、勤務中に東日本大震災(3.11)の大津波により被災
- 2012年10月 本店ガス営業部産業営業グループマネージャー
- 2014年 7月 中央火力事業所計画部長
- 2015年 7月 現職



## 【はじめに】

2011年3月11日(金)14時46分、三陸沖を震源とする大

地震が発生し、東京電力(株)の電力供給力は5,200万kWから3,100万kWまで激減しましたが、数ヵ月後に控えた夏の電力需要に応えるためには、津波により未曾有の甚大な被害を受けた広野火力発電所(所在地：福島県広野町)でさえ、その復旧は必須な状況でした。

4mを超える津波の直撃により広野火力発電所の発電設備は水没したため、これらを全号機復旧するためには、通常であれば年単位の長期間が必要だと想定されました。しかし、首都圏の電源を確保するためには、なんととしてでも4ヶ月という短期間での復旧が広野火力発電所へのミッションとして与えられ、青山さんが復旧工程全体を管理するPMに選任されました。

## 【講演の内容】

被害の概要報告の後、多くの自動車が行き交う発電所が津波に飲み込まれる様子の動画や写真など、ここでしか見られない映像を多用して、参加者は被害状況の甚大さを共有することができました。自然の脅威を改めて感じるとともに、東日本全域がパニックに陥った4年前を思い出さずには居られませんでした。

前半は、全てが水没した火力発電所の各設備状況とどうやって補修したかのご説明でしたが、今回の報告では、ほんの一部の代表的な設備しか紹介しただけなかつたものと思います。しかし、びっしりと書き込まれた工程表、復旧に参加された作業員が一日2,000人を超えているデイリーの管理表を実際に見ると、これまでに経験したことがないほどの大工事が短期間のうちにコントロールされたことがよくわかりました。

後半は、PMを経験された青山さんでなければお話できないような内容でした。

## ①工程管理専門チームの設置

当初到底達成が出来ないと思われた復旧作業には、社内・社外の応援・協力体制が不可欠だけでなく、作業開始当初から目標工程と現実の工程には大きなギャップがあることは、

## ■PMI Japan Festa 2015 セミナーレポート

すべてのステークホルダーの共通認識であった。

被災した設備にはそれぞれ復旧担当が配置されたが、工程を短縮するための資機材の手配や、工程の見直しなど、「自分の設備を見るだけで精いっぱい」という状況であった。その中で、直接設備を担当していない管理職が全体工程を管理するチームを組成したことにより、「どの部署にストレッチ目標を設定すれば最も効果的に目標工程を短縮できるか」を設定・指示することが可能となった。

## ②デイリーのクリティカル工程の見直し

最初の目標工程は、4ヶ月をはるかに超える数年規模の工期となったが、それぞれの担当に目標工程と現状のクリティカル工程とのギャップを実感させ、それを埋めるあらゆる方策を提案・実行（電源盤のコネクターの代わりにケーブルを一本ずつ現場で接続、低圧の電源車を接続して大型のクレーンの電源とする、など）させた。それを毎日の進捗会議にてステークホルダー間で共有・更新し続けることで、数年規模の最初の目標工程から4ヶ月という最終の目標工程に一致させることが可能となった。

## ③リーダーシップ

PMを任されたものの、なかなか目標工程が短縮できない時には、心が折れそうになった。しかし、発電所長自らが、毎朝の朝礼で所員全員に訓示し、課題解決に直接関与している姿を見て、自分を奮い立たせ、最後まであきらめない姿勢をメンバーに見せることを誓った。

（「火力発電所を夏までに全号機復旧させる」という社会的使命もあり、「出来ない理由より、どうやれば出来るかを考え

る」が全関係者の合い言葉になったということは、全員の意識のベクトルが同じ方向を向いていたと思われ、とても印象的でした）

## 【講師担当余話】

省エネや電力の使用制限要請はあったものの、最大電力需要期の夏に停電させず乗り切った裏側には、電力会社の社会的使命を達成するための並々ならぬハードワークがあったはずで、その苦勞と体験を聴かせてほしいと思い、お願いしました。

津波の動画や被災された火力設備の写真などは、Festaの参加者しか見ることができない貴重なものでしたが、それ以上に、インフラ設備を保守・運転する現場の長としての責任感があふれており、自ら先頭に立って復旧作業を進められた青山さんの熱のこもった講演に感動しました。

また、発電所が復旧し、送電を開始した時に発電所員・メーカー・協力会社の全員が制御室の前に集まり、その様子を見守り、拍手し、涙した場面は、PMを経験した者であれば、本当に感動的で共感いただけたものと思います。

講演直後の休憩スペースでの参加者との意見交換も、休憩時間ギリギリまでご対応くださいました。

また、夜の交流会での具体的な事例を交えたお話では、多くの参加者とプロジェクト成功の秘訣を共有され、参加された皆さんは必ずやご満足いただけたものと思います。

青山さま、本当にありがとうございました。また、これからも安定した電力供給をよろしく願います。

## 【Festa2015】セミナーレポート (K-3)

## ■子どもが売られない世界をつくるために

PMI日本支部 セミナー委員会 豊田光海

## 【セミナー概要】

- 開催期日：2015年11月7日(土) 15:00～16:00
- タイトル：子どもが売られない世界をつくるために
- 講師：草薙直基氏

## □講師のプロフィール：

認定NPO法人かものはしプロジェクト 広報・ファンドレイジング部担当

## 【略歴】

- 1986年6月2日生まれ 東京都立川市出身。

## ■ PMI Japan Festa 2015 セミナーレポート

- 2006年、学生時代にベトナムを訪問した際に貧富の差を目の当たりにし、そのような現実をなくしたいと世界の不均衡をなくす活動を志す。大学卒業後、一般企業に勤務した後に、かものはしプロジェクトに入職。国際ソロプチミストやロータリークラブ、ライオンズクラブ、倫理法人会等、社会貢献活動を行っている団体や全国の経営者の会等で問題をなくすために講演活動を行っている。



## 【はじめに】

平和な日本に住んでいると、日々世界のどこかで子供が売られているというのは信じがたい事実です。「まず始めに売春宿の中の様子を見ていただいて、ここにいらっしゃる皆さんとこの問題を共有できればと思います」という草薙様の言葉とともに、ショッキングな映像が流れ、本講演がスタートしました。売られた子供が売春宿で働かされているという現場へ警察が取り締まりに入り、子供を助け出すという映像は、あまりに悲しすぎる現実でした。会場は重たい空気に包まれましたが、草薙様がなぜかものはしプロジェクトで活動をするようになったのかというお話から、かものはしプロジェクトの取り組みについての説明へと移り、とてもエネルギッシュな熱い語り口に受講者の皆さんは引き込まれていきました。

## 【講演内容】

## ● カンボジアでの取り組み

カンボジアの貧しい農村では、子供も労働力として出稼ぎに出される時に、売春宿と提携する業者にだまされ、売春宿に売られる、売春宿には子供を買う客が後を絶たないという一つのビジネスの形が成り立っています。1990年代から子どもの人身売買被害者が急激に増え、被害にあった子どもたちは救済されても望まない妊娠やHIV感染、トラウマ等の精

神的影響を受け、社会復帰が難しいという問題も深刻化していました。売春宿を摘発しても、農村での貧困という現状が改善されなければ問題解決にはなりません。

かものはしプロジェクトでは2002年よりカンボジアで「子どもを売らせない・買わせない」世界を作る活動を始めました。まず農村の貧困問題を改善するために、「大人には仕事を、子供には教育を」というスローガンの下、パソコンスクールを立ち上げ子供達にIT教育を実施、郊外にコミュニティ・ファクトリーを設立し、井草を使った雑貨の製作・販売に取り組んでいます。コミュニティ・ファクトリーは最初5名のスタッフで始めましたが、規模も拡大し、今後は自立、黒字化、現地化を目指しています。

コミュニティ・ファクトリーの様子は数分間の動画でも上映されましたが、家が貧しいために学校を辞め日雇いの仕事をしてきた女の子達が、生き生きと仕事をし、スキルを評価してもらった時が嬉しいと明るい表情で話していたのが印象的でした。

もう一つの取り組みとして、警察支援があります。警官の教育が不十分で正しい法的判断、法執行ができていないために、売春を斡旋するブローカーや売春宿を取り締まられずにいましたが、警察訓練を継続的に実施することにより、摘発数は10年間で9倍になりました。

## ● インドでの取り組み

インドでは被害にあった女性達を救出して故郷に戻すことができて、そこでは村八分にあい、社会復帰が困難で精神的に立ち直れない、または自殺をしてしまう女性達が後を絶たず、2012年よりインドでも「子供たちが売られない、買わせない」活動を始めました。現地の調査から、インドの各地方からムンバイという地域に売られていく多数のルートがあり、トラフィッカーというブローカーが介在し、売春宿に売られていく仕組みが成り立っていることがわかりました。法の網をくぐり抜けて、裁判になっても有罪判決率はごくわずかでした。かものはしプロジェクト単独でできることは限られるため、現地のいくつかのNPO組織と組み、被害者を救出し、精神的なケアを行い、有罪判決を勝ち取るよう裁判を支援し、女性達の自立の手助けをするという活動を継続しています。一人でも多くの被害者を助けるためには、しっかりと現地に根差し、現地の組織、現地の人々の中に入り込み、共に歩むということが大切なのだと思いました。

## ■ PMI Japan Festa 2015 セミナーレポート

## ● ファンドレイジング

活動を継続していくには財源も必要です。かものはしプロジェクトのファンドレイジング内訳としては会費、寄付、助成金、委託金等ですが、会費の割合が全体の約5割を占め、安定した財源が確保できていることが強みとなっています。

個人でも少額から定期的に支援できる制度や、ボランティア活動で参加できる機会を設け、一人一人が出来る範囲で協力し易い仕組みを作っています。小さな積み重ねが、かものはしプロジェクトの一つ一つの取り組みを支えています。

## 【講師担当余話】

冒頭の映像で子供が売られているという悲惨な現実を目の当たりにして、自分に何ができるのか？と自問自答された

方も多かったのではないのでしょうか。休憩スペースでブースを設置していただき、かものはしプロジェクトの取り組みについてのビデオ上映やグッズの販売もありましたので、多くの方にかものはしプロジェクトの活動について知っていただく良い機会になったのではないかと思います。また草薙様は交流会にも参加してくださいましたので、受講者の方々と積極的に交流され、講演中に語られなかった苦労話や色々な話題で会話が盛り上がっていました。

お忙しい中で講演いただきました草薙様、そしてご協力を頂きました関係者の皆様に御礼申し上げます。かものはしプロジェクトの取り組みの一つ一つが形になり、益々発展していけますことを願っております。

## 【Festa2015】 セミナーレポート (K-4)

## ■ ゼロ秒思考の実践

PMI日本支部 セミナー委員会 三好利昌

## 【セミナー概要】

□開催期日：2015年11月7日(土) 16:15～17:15

□タイトル：ゼロ秒思考の実践

□講師：赤羽 雄二 氏

□講師のプロフィール：

ブレイクスルーパートナーズ株式会社 マネージングディレクター

## 【略歴】

- 東京大学工学部を1978年に卒業後、小松製作所で建設現場用ダンプトラックの設計・開発に携わる。1983年よりスタンフォード大学大学院に留学し、機械工学修士、修士上級課程を修了。
- 1986年、マッキンゼーに入社。経営戦略の立案と実行支援、新組織の設計と導入、マーケティング、新事業立ち上げなど多数のプロジェクトをリード。
- 2002年、「日本発の世界的ベンチャー」を1社でも多く生み出すことを使命としてブレイクスルーパートナーズ株式会社を共同創業。

- ベンチャー経営支援に加え、大企業の経営・組織改革、意識・行動改革、経営人材育成、新事業創出などにも深く関わる。
- 著書に「ゼロ秒思考」「速さは全てを解決する」「世界基準の上司」「頭が真っ白になりそうな時、さりと切り返す話し方」「世界一シンプルなこころの整理法」「マンガでわかる！ マッキンゼー式ロジカルシンキング」「頭を前向きにする習慣」「7日で作る事業計画書」など。



## ■PMI Japan Festa 2015 セミナーレポート

## 【はじめに】

私をはじめ赤羽さんとお話ししたのは、有志で行っている勉強会に講師としてお越しいただくための調整を行ったメール上でした。この時、メール送信後、数分以内には返信が届くということにまずは驚嘆しました。私もメールは即レスを心がけているのですが、こういう方が居るものかとその時点から親近感を覚えていました。

そして当日の勉強会。メモ書きと質問の嵐となりました。勉強会後には参加者から高評価を得たため、別の場所でも『ゼロ秒思考』を伝えたいと考えていたところ、今回のFestaの場が良いのではと思い立ったのです。

日本を背負って立つ沢山のPMPホルダーの方々はこのメソッドが伝達できれば、その先に波及する効果は計り知れず、とても良い場になるに違いないとの確信からです。

## 【講演内容】

頭の中のモヤモヤをA4メモに書き出していだけで、仕事、学歴、年齢、性別、国籍問わず誰でも、モヤモヤがなくなり、思考が明確化するメソッド『ゼロ秒思考』。これを皆様にご紹介し、その場で参加者の皆さんにメモ書き実践をしていただきました。

このゼロ秒思考により、あらゆる場面での対応速度、応答速度が格段にスピードアップし、即断即決の思考回路を作るのにとっても有用です。

他方、日本が直面する危機などについても講演いただき、今の日本が危機的状況に置かれている現状を少しでもご理解いただけたのではないかと思います。

広い講演会場であったにも関わらず質疑応答もでき、納得感は増したのではないかと想像していますが、参加者の皆様にはいかがでしたでしょうか？

## 【講師担当余話】

後日、参加者からのアンケートを集計すると、賛否両論あったことがわかりました。赤羽氏の語調や発言の鋭さから来る批評は想定できていましたが、それでも『素晴らしい機会を与えていただき、感謝しております』との多くのコメントがありました。時間オーバーしたことへの批判はありましたが、それはむしろ『もっと聞きたい』という気持ちの表れでもあったと思います。

『本Festaへの参加者であれば、いつでもコンタクトを歓迎します』という気さくな一面も見える赤羽氏、これからも活躍していただきたいと思います。

IT分野における国家戦略にも関わっている赤羽氏の言葉をPMPホルダーのみな様へ直接発信していただいたことを心よりお礼申し上げます。

## 【Festa2015】セミナーレポート (K-5)

## ■『ミドリムシが地球を救う!』その戦略

PMI日本支部 セミナー委員会 芳野 剛

## 【セミナー概要】

□開催期日：2015年11月8日(日) 9:30～11:30

□タイトル：『ミドリムシが地球を救う!』その戦略

□講師：ながた あきひこ 永田 暁彦 氏

□講師のプロフィール：

- 株式会社ユーグレナ 取締役経営戦略部長
- 株式会社ユーグレナインベストメント 代表取締役社長

- 合同会社ユーグレナ S M B C 日興リバネスキャピタル 代表業務執行役

## 【略歴】

- 慶応義塾大学商学部卒。独立系プライベートエクイティファンドに入社。
- 同社でプライベート・エクイティ部門とコンサルティング部門に所属。

## ■PMI Japan Festa 2015 セミナーレポート

- 2008年にユーグレナ社の取締役役に就任。
- ユーグレナ社においては、事業戦略立案、M&A、資金調達、資本提携（ANA、電通、清水建設、東京センチュリーリースなど）、広報・IR、管理部門構築、東証マザーズ・東証1部上場など、技術を支える戦略、ファイナンス、管理業務分野を担当し、当該領域に精通。当事業においてもそのノウハウを活用した投資先支援の中心を担う。



## 【はじめに】

最近新聞で「59種栄養素をもつミドリムシ」の宣伝を目にされたことがあると思います。

ミドリムシって何でしょうか？

私たちが子どもの頃、理科の時間に教科書や顕微鏡で見たことがある緑色の藻の一種、和名を「ミドリムシ」学名「ユーグレナ」のことで。

ご講演いただく永田様の所属するユーグレナ社は、社長である出雲 充 様のバン格拉ディッシュにおける原体験を元にした「栄養失調問題を解決したい」という強い意志と、研究者の「藻類をさまざまな産業に活用する」という夢が創業の源となっています。

当講演では、創業から10年で東証一部上場を達成したユーグレナ社が、いかに創業の夢や想いを維持させつつ事業の促進を続けてきたのか、そして、いかに会社の文化やミッションを事業推進力へと変換し続けているのか、PMの切り口で、お話いただきました。

## 【講演の内容】

ミドリムシは5億年以上前から地球に存在し、すぐに食べられてしまうのですが、1日で2倍、1か月で10億倍に光合成で増え続け、しかも豊富な栄養素をもっています。

ミドリムシの栄養素を活用し、バン格拉ディッシュの飢餓状態（栄養失調）を解決するためにユーグレナ社は、創業されました。

事業が成功した理由は、日本中の大学・学会から失敗例を入手し、95%までうまくいっていることに注目した点です。

ミドリムシは約100種類あり、燃料・食品・ヘルスケア・化粧品の用途があり、ヘルスケアで得たキャッシュフローを、エネルギー事業へ投資し成長されています。

そして、2020年国産バイオジェット・ディーゼル燃料実用化に向け、以下の計画を着実に実行されています。

2010年要素技術基礎研究、2013年要素技術開発、2014年いすゞ自動車との燃料研究開発、2016年燃料製造実証プラント建設、2018年日本初燃料製造実証プラント稼働、2020年国産バイオジェット・ディーゼル燃料の実用化。

これらを実現させるための、成長戦略・官民連携・技術開発のロードマップのお話をうかがい、ポートフォリオマネジメントやプログラムマネジメントの重要性を感じました。

また、豊かな発想力、ステークホルダー管理力、連携力、コミュニケーション力、リスクマネジメント力、リーダーシップの観点において、私たちプロジェクト・マネジャーとして、大いに学ぶべきものを感じた1時間でした。

## 【講師担当余話】

連続してご講演いただいた、永田暁彦様のユーグレナ社と山口絵理子様のマザーハウス社は、偶然にもともにバン格拉ディッシュ人民共和国の原体験がきっかけで事業を展開されています。

ユーグレナ社は、人と地球を健康にすることを理念とされ、マザーハウス社は途上国から世界に通用するブランドをつくり持続可能な貢献を目指しており、ともに日本そして世界に向けて活躍を広げていく企業として、さまざまな取り組みを推進されています。

今回の講演において、このお二人とも交流させていただくことができ、大変光栄に思っています。

質疑応答の時間でも、心のこもった有益なお答えをいただき、参加された皆さんも満足いただけたと思います。本当にありがとうございました。

2020年には国産バイオジェット・ディーゼル燃料の実用化に成功されていることを祈念しています。

## 【Festa2015】セミナーレポート (K-6)

## ■ 途上国から世界に通用するブランドをつくる

PMI日本支部 セミナー委員会 豊田光海

## 【セミナー概要】

- 開催期日：2015年11月8日(日) 11:15～12:15
- タイトル：途上国から世界に通用するブランドをつくる
- 講師：山口 絵理子氏
- 講師のプロフィール：

株式会社マザーハウス 代表兼チーフデザイナー

## 【略歴】

- 1981年埼玉生まれ。慶應義塾大学総合政策学部卒業。ワシントン国際機関でのインターンを経てバングラディッシュ BRAC 大学院開発学部修士課程入学。
- 現地での2年間の滞在中、日本大手商社のダッカ事務所にて研修生を勤めながら夜間の大学院に通う。2年後に帰国し「途上国から世界に通用するブランドをつくる」をミッションとして株式会社マザーハウスを設立。現在バングラディッシュ、ネパール、インドネシアでバッグや服飾雑貨のデザイン・生産を行い、東京を始め、福岡、大阪、そして台湾など21店舗で販売を展開。
- Young Global Leader (YGL) 2008選出。ハーバードビジネススクールクラブ・オブ・ジャパン アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー2012受賞。



## 【はじめに】

マザーハウスは「途上国から世界に通用するブランドをつくる」という理念を掲げ、2006年にスタートしました。「かわいそう」ではなく「かわいい かっこいい」と思えるもの作りを目指し、バングラディッシュ、ネパール、そしてラオス

やインドネシアにおいて、その国にある素材や技術を使い、品質にこだわったバッグ、ショール、アクセサリを生産しています。都内のマザーハウスの店舗に立ち寄ると、さまざまなシーンで使いたくなるような、大切な人にプレゼントしたくなるような、お洒落な商品がディスプレイされ、デザイン性、ファッション性、機能性ともに優れていることが見て取れます。本講演では、途上国でのゼロからの立ち上げストーリーと、現在までの歩み、生産者とお客様がつながり、もの作りの背景が見えるさまざまな挑戦、現地、日本のスタッフのマネジメントについてお話し頂きました。

## 【講演内容】

山口様は大学のインターン時代、ワシントン国際機関で途上国の援助に疑問を感じ、いったい途上国でどんな問題が起きているのか、援助は本当に役立っているのか、自分の目で確かめるために、途上国へ行くという決心をしました。選んだ国はアジアの最貧国 バングラディッシュ。貧困、暴動、外出禁止令、ストライキ、洪水、汚職、賄賂、日本の生活からはかけ離れた生活インフラの数々。人々は日々生きるのに精一杯。そんな国で、ジュート（麻）という素材に出会い、外部の工場を利用したバッグの生産から自社工場での生産、販売へと、ビジネスを0から立ち上げ軌道にのせるまでの道のりには、想像をはるかに超えるさまざまな苦難がありました。幾度もの困難を乗り越えてこられたのは、山口様自身がどんなことがあっても強い信念を持ち続け、リーダーシップを発揮してきたこと、また自身へのマインドマネジメント、必ずうまくいくとひたすらイメージしてきたこと、社内では会社理念、哲学を理解し、共有するということが重要視し、生産地でも日本でも販売スタッフを含む全社員へ徹底してきたということです。

製造から小売りまで一貫して行う体制が最大の強みとなり、品質を重視し、決して妥協を許さず、良いものを作るという山口様の考えが徹底しています。お客様第一主義で、お客様の小さな声にも耳を傾け商品を改良し続けています。また、たとえ小さなニーズであってもしっかりと吸い上げ、商品開

## ■PMI Japan Festa 2015 セミナーレポート

発を行うという試みも実施しており、身体に障害のあるお客様と一緒に商品開発を行い、大変喜ばれています。ユニークな試みとして、旅行会社のHISと提携し、マザーハウス自社工場生産スタッフとともにエコバッグづくりを体験できるというツアーを定期的に開催しています。現地ではランチの提供、残業食の提供、社内ローン制度創設、福利厚生充実等、働きやすい環境作りにも積極的に取り組んでおり、職場環境の改善が良いものづくりへとつながっています。

動画上映の中で、苦楽を共にしてきたスタッフの一人、モインさんのインタビューがありましたが、「自分は会社に全てを捧げている、心から会社の哲学を信じている、世界中でマザーハウスの商品を手にとることができるようになるのが夢だ」と目を輝かせて語っている様子に、マザーハウスというブランドの強さを感じました。山口様の強い信念が全社員に伝わり、会社が1つになって成長している姿を感じました。バングラディッシュでの0からのブランド立ち上げの成功体験を活かし、ネパール、インドネシア、ラオスへと展開されたブランド創りは今後どのように発展していくのか、非常に楽しみです。山口様のご意向で質疑応答の時間を少し長めに取りましたが、受講者の方々も積極的に質問をされていました。自身のプロジェクトに置き換え、得るものが多く、とても刺激のある1時間でした。

## 【講師担当余話】

Festaの準備は1年前から始まりますが、いつもあらゆるところにアンテナを立て、講演いただきたい講師の方をリストアップしています。「未開の地に踏み出し未来を創造するリーダー達」というテーマが決まった時、私のリストの中で真っ先に山口様のことが思い浮かびました。山口様の著書である「裸でも生きる」1、2を読み、20代前半で最貧国バングラディッシュへ渡り、あらゆる苦難を乗り越えビジネスを軌道に乗せ、さらに次のステージへと邁進する山口様の生き方やビジネス理念に感動し、直接お話を聞きたいという思いが強くなりました。委員会のメンバー誰一人コネクションがなく、マザーハウス様広報窓口へコンタクトし、PMI日本支部の活動、Festaについて説明さしあげ、今回なぜ山口様にご講演をいただきたいのかという思いを何度も伝え、講演が実現しました。

打ち合わせでお会いした第一印象は、華奢で可愛らしい外見から、どこにそんな力が隠されているのだろうという感じでしたが、物腰柔らかくでありながら、ものすごいエネルギーと魅力に惹きつけられました。

1年の2/3はバングラディッシュや海外で過ごされているという中で、スケジュールを調整し講演いただきました山口様、そしてご協力くださいました広報ご担当の方々に御礼申し上げます。

## 【Festa2015】セミナーレポート (K-7)

## ■目をOFFにして、心をONに

## ～ブラインドサッカーから学ぶチームビルディング～

PMI日本支部 セミナー委員会 玉置 志津

## 【セミナー概要】

- 開催期日：2015年11月8日(日) 13:15～14:15
- タイトル：目をOFFにして、心をONに ～ブラインドサッカーから学ぶチームビルディング
- 講師：井口 健司氏
- 講師のプロフィール：  
日本ブラインドサッカー協会 ダイバーシティ事業部長

## 【略歴】

- 大学卒業後、国立障害者リハビリテーション学院視覚障害学科を経て、障害者支援施設で勤務。
- 2011年4月に日本ブラインドサッカー協会に転職。強化部、審判部、大会事業部を担うと共に2006年のアルゼンチンで開催されたIBSA世界選手権で国際審判員としてデビュー。

## ■PMI Japan Festa 2015 セミナーレポート

- 現在は国際審判員としての活動と共にダイバーシティ事業部を統括。「障がい者スポーツでの学びの機会創出」をテーマにしたブラインドサッカー体験型授業『スポ育』は、のべ5万人を超える児童が経験。その活動は2013年に東京都都知事賞、2014年には内閣府賞を受賞。さらには企業内でのコミュニケーション改善のためのOFF TIMEとして、多くの企業や団体で活用されている。



## 【はじめに】

井口様の自己紹介から始まった本講演、最初の話題は、山手線の駅のホームから転落して亡くなった視覚障がい者テニスの選手のことでした。ホームドアの設置等のようなハード面の対策は別として、もしかしたら「危ない！」という一声で助かったかもしれない命、前職「歩行訓練士」としての井口様の思いが静かに語られ、受講者皆が引き込まれていきました。ハード面が十分でなくとも、多種多様な人、国籍や性別、障がいの有無等に関係なく、互いに交じり合い、一緒に過ごせる社会の実現。そんな思いが、今日の井口様の活動の背景にあることを、感じさせてくれる始まりでした。

## 【講演内容】

日本四大名姓の方の人口と、障がい者人口は、実はほぼ同じなのだそうです。しかし、受講者に対し、知人に障がい者の方がいるか、知人に日本四代名姓の方がいるかの二つの質問の答えを拍手で確認したところ、圧倒的に前者のほうが少ない結果でした。また、次には、子供たちに聞いた、視覚障がい者に対するイメージの言葉が表示されました。見事に、ネガティブな言葉が並んでおり、どうしても、障がい者に対するイメージがネガティブになりがちなることを、端的に表していました。「ブラインドサッカーのビジョンは、ブラインドサッカーを通じて、視覚障がい者と健常者があたりまえに

混ざりあう社会を実現すること」。障がい者に対するこのネガティブなイメージをポジティブに変え、気兼ねしない友だちのような関係を作りたい。講演の導入部は、そんな井口様の思いへつながるものでした。

講演の中ほどでは、日本代表選手候補の寺西様が登場され、ブラインドサッカーのすばらしい実演を見せていただきました。その感動も冷めやらぬまま、寺西様指導の下、今度は受講者もスポ育の実体験です。二人一組、寺西様のストレッチの動きを、目を閉じた片方に、もう片方が言葉だけで伝える「体験」は、目を閉じて隣の人の声だけを頼りにするとともに心細い感覚と、そんな中で聞こえてきたペアの方の声に思わず感じる深い安心感の両方を体験することができました。ほんのちょっとしたことですが、自らの心と体で実感するコミュニケーションの重要性、相手の立場に立って伝えることの大切さは、受講者の心に刻み込まれたことと思います。

コミュニケーションの重要性は、どんな職場においても変わりません。障がい者に限らず、多様性の理解の大切さは、プロジェクト・マネジャーであれば、日々痛感されていることでしょう。隣り合わせた人を信頼し、チャレンジしてチームワークを築きチーム力を作っていく。そんなポジティブな体験ができた1時間でした。

## 【講師担当余話】

井口様の講師担当となったことがきっかけで、ブラインドサッカーアジア選手権を観戦に行きました。チケットが有料であること、観客が思いがけず多いことにまず驚き、非常に熱い激しい試合に驚き、静寂な中での観戦と、ゴールの際の飛び切りの歓声に驚きました。今まで知らなかった世界を「知る」、ポジティブな出会い。きっとこれが第一歩なのだと思います。

実は、Festaご講演の準備の時期が、ちょうどアジア選手権の時期と重なっており、井口様をはじめとするブラインドサッカー協会の皆様には、日本開催の成功に向けて極めてご多忙なかご協力いただくことになりました。本当にありがとうございました。リオパラリンピック出場はかないませんが、2024年のゴールに向かって、益々発展していかれることでしょう。今後は一ファンとして、応援させていただきます。

## 【Festa2015】セミナーレポート (K-8)

## ■ 第一生命における株式会社化・上場プロジェクト

PMI日本支部 セミナー委員会 野々市谷 有里

## 【セミナー概要】

- 開催期日：2015年11月8日(日) 14:30～15:30
- タイトル：第一生命における株式会社化・上場プロジェクト
- 講師：稲垣 精二 氏
- 講師のプロフィール：

第一生命保険株式会社 企画担当 常務執行役員

## 【略歴】

- 1986年4月第一生命保険相互会社入社
- 2007年4月同社リスク管理統括部長
- 2008年4月同社企画第一部長
- 2010年4月第一生命保険株式会社運用企画部長
- 2012年4月同社執行役員運用企画部長
- 2013年6月同社執行役員経営企画部長
- 2015年4月同社常務執行役員経営企画部長



## 【はじめに】

「保険相互会社の株式会社化」と聞いたとき、なぜそれを実施する意味があるのか、そのためにはどんな作業が必要なのか、といった具体的な内容について説明できる人はあまりいないのではないのでしょうか。当時企画部長に就任され、この「株式会社化」プロジェクトのリーダーとなった稲垣氏も同じ状況でした。そして当時の社員とお客様にとっても、まさに未開の地へ踏み出す第一歩でした。株式会社化までの道のりが平坦ではなかったことは、容易に想像できると思います。

方針決定から株式会社化までの2年間と、運用を軌道に乗せ、株式会社化推進室収束までの合計3年間のプロジェクト

は成功裡に完了しました。本講演では、そこに至るまでにどのような困難があり、それをどのように乗り越えたのかといった経験談を、苦労話を交えながらお話しいただきました。

## 【講演内容】

保険相互会社を株式会社化することにより、事業展開の自由度が高まります。第一生命は株式会社化から5年を経て、国内事業の成長・複線化や国内外企業の買収により、その企業価値は順調に成長しています。しかしながら、そこに至るまでには、過去に前例のないこと（新規性）、多数のお客さまを抱えていること（大量性）という、プロジェクトを進める上での大きな2つのハードルを乗り越える必要がありました。当講演では、新規性・大量性をキーワードとして、いかに外部専門家と協力してきたかという側面から、プロジェクトについてご説明いただきました。

「新規性」としては、役職員もお客さまである契約者も株式会社化・上場は未知の領域であるのに加えて、2009年1月より上場会社の株券電子化も予定されていました。株式会社化・上場の目的や、「相互会社の株式会社化に伴い、社員（契約者）に株式が割り当てられる」といった概念について、契約者に理解を深めていただくことが重要な課題でした。契約者には証券会社の口座を自身で開設していただく必要がある一方、株式電子化により、わかりやすい「株券」を紙で交付することができなくなりました。それらの課題を解決するために、とにかく、丁寧なコミュニケーションが実施されました。契約者と直接対話をする営業職員に対しては、プロジェクトメンバーが営業朝礼に参加するなどして、「株式会社化」が腹落ちするまで説明を行いました。また、営業職員が契約者に説明し易いように、アニメーション付きの説明用アプリケーションも準備しました。

また、契約者からのお問い合わせに対応するために、すでに設置してあった保険商品に関する照会を受電するコールセンターとは別に、株式会社化専用コールセンターの運営をスタートしました。ここは、高い専門性を持ち、実績のある外

## ■PMI Japan Festa 2015 セミナーレポート

部業者に委託しました。そのような中で、最も問い合わせの多かった「第一生命の株価（初値）はいくらになるのか」といった質問に対しては、（弁護士からは株価について伝えることを禁じられていたために）回答ができず、とうとう社長からも解決策を見つけるようにと促されてしまいました。最終的には「参考値」を伝える方法を何とか見つけ出し、弁護士にも承諾を得て乗り切ることができました。「法的に弁護士がNOと言っているからできません」と言って逃げることもできたのではないかと思います。そこに、お客様の疑問は着実に解消する、といった丁寧なコミュニケーションの姿を見ました。

「大量性」としては、300万人以上に株式を割り当てるも、株式交付にあたっては証券口座が必要であることに加え、700万件超の送金はメガバンクにも経験がないといった課題がありました。通常の証券口座手続きでは、株式会社化の当日までにすべてのお客様の口座開設が間に合わないことがわかり、証券会社と協力して、簡易な口座設定方法を開発しました。また、送金については、事前に送金先の銀行口座が有効であるかどうかを確認することによって、送金エラーの発生を防ぎました。

このようにさまざまな困難な課題を解決し、プロジェクトが株式会社化に向けた目標を達成したのと同時に、副次的な効果もありました。株式会社化総訪問活動を通じて現場が活性化したことにより、お客様満足度、契約継続率が上がりました。また、専属メンバーとして多くの若手職員をアサインしたことにより、前例のないプロジェクトでの苦闘と成功体験をしたことが成長の糧となって、その後も多方面の分野で活躍されているとのことでした。

最後に、成功のポイントとして、①社内の叡智を結集したこと、②事前の入念な検討で「想定外」を極小化したこと（それでも想定外が発生した場合は、PDCAで対応したこと）、

③プロジェクト立ち上げ当初から社外専門家と協業したこと、の3点を挙げられました。複雑につながるステークホルダーの関係を図解で説明いただき、どれほど「大量」であったかを数値で語っていただいたので、プロジェクトの複雑さや規模感がよく理解できたのではないかと思います。そして何よりも、その困難なプロジェクトでの課題をどのように解決していったのかを、具体的な解決策を交えてご説明いただいたので、受講者にとっても、ご自身のプロジェクトの参考となる大きなヒントが得られたであろうと、確信しています。2日間に渡って開催されました、PMI Japan Festa 2015 を締めくくるに相応しい、素晴らしいご講演でした。

## 【講師担当余談】

初めて稲垣様にお会いした際、とても優しい笑顔でおだやかに語られる様子に、この困難なプロジェクトもスマートにさりりと対応されたのではないかと勝手な想像をしていました。しかしながら、お話を伺うにつれ、想定外の事態が起こらないようにどんなにマネジメントしても、想定外のことが起こってしまうなど、いろいろと大変な苦労をされたことを知りました。一方、副次的効果で、契約者であるお客さまと営業との関係が深まった件については、非常に嬉しそうに話されていたのがとても印象的でした。

お忙しい中、講演をご承諾いただいたことに大変感激しておりましたが、今回の講演の機会が持てたことについて、反対にこちら側に感謝のお言葉をいただきました。大変苦労したプロジェクトなので、講演という形で外部の人に知ってもらえることができ、メンバーや外部の社外専門家も喜んでくれるとおっしゃっていました。

プロジェクトが終わっても、ステークホルダーを想い続ける姿勢についても学ばせていただきました。

稲垣様、およびご講演までサポートいただきました、経営企画部竹田津様に改めて御礼申し上げます。

# Activities / 支部活動

## ■PMI日本支部中部ブランチャ設立記念セミナー 開催報告

PMI日本支部中部ブランチャ運営委員会 井奈波 誠

PMI日本支部の中部地域の活動を強化する拠点として、中部ブランチャを2015年11月14日に設立しました。中部ブランチャは、関西に続くPMI日本支部の2番目のブランチャとなります。これを記念し、2015年11月28日に中部ブランチャ設立記念セミナーを開催しました。セミナーには、中部地域にて活躍されている、産・官・学のリーダーを招き、3名の方からセミナーのテーマである「世界に窓を開く！」にふさわしい内容の講演をしていただきました。その中部ブランチャ設立記念セミナーの様子を紹介いたします。

【主催】PMI日本支部

【後援団体（順不同）】

中部経済産業局、名古屋大学医学部附属病院、中部大学、株式会社アイ・ティ・イノベーション、JBC株式会社、株式会社マネジメントソリューションズ、三菱電機株式会社

【日時】2015年11月28日（土曜日）

【場所】名古屋大学医学部附属病院 基礎研究棟 4階 第4講義室

【テーマ】「PMI日本支部中部ブランチャ設立記念セミナー」  
～PMI拠点開設＝世界に窓を開く！ さぁ輝こう～

【アジェンダ】

■開会宣言

木南浩司：PMI日本支部中部ブランチャ代表

■PMI本部からのメッセージ

Mark A. Langley, President and CEO of Project Management Institute

Brantlee Underhill, Director of PMI Membership community

■主催者挨拶

奥澤 薫：PMI日本支部会長

■来賓挨拶

山本修一郎氏：名古屋大学 情報連携統括本部 情報戦略室教授、PM学会中部支部 支部長

天野吉和氏：富士通株式会社 顧問、(元トヨタ自動車株式会社CIO)

■講演-1 テーマ：未来に向けての医療ITのあり方

白鳥義宗氏：名古屋大学医学部附属病院 病院長補佐、メディカルITセンター長・病院教授 医学博士

■講演-2 テーマ：まちを開く～桑名市が進める「地方創生」と「公民連携」について

川地尚武氏：桑名市役所 市長公室ブランド推進課 主幹

■講演-3 テーマ：国産旅客機MRJを世界の空へ！

岩佐一志氏：三菱航空機株式会社 執行役員 コーポレート本部長

■閉会宣言

セミナー会場は、講演者の一人である白鳥先生が務めておいで名古屋大学医学部附属病院 基礎研究棟4階 第4講義室を使用させていただきました。ここは、階段型の教室となっており、講演者を包み込むようなアカデミックな雰囲気を感じることができました。この会場を使用するに当たり、名古屋大学医学部附属病院のスタッフの方々には準備段階は基より、セミナー当日もセミナー・スタッフとしてご協力いただきました。



セミナーのオープニングを飾ったのは、PMI本部会長兼CEOマーク・ラングレイ氏からのお祝いレター、PMI本部長

## Activities / 支部活動

## ■PMI日本支部中部ブランチャ設立記念セミナー 開催報告

事ブランドリー・アンダーヒル氏からのビデオメッセージ。中部ブランチャが、グローバルなPMIの拠点に加わったことを実感した瞬間でした。



これに引き続き、PMI日本支部会長の奥澤薫からの主催者挨拶、来賓としてお越しいただいた、名古屋大学情報連携統括本部 情報戦略室教授 山本修一郎氏、富士通株式会社顧問 天野吉和氏より来賓の挨拶を賜りました。



記念講演として最初の登壇者は、中部ブランチャ設立準備委員会にも参加いただいた、名古屋大学医学部附属病院メディカルITセンター長・病院教授 医学博士の白鳥義宗氏。講演テーマは、「未来に向けての医療ITのあり方」でした。白鳥先生が医師として患者さんに最後まで関わりたいと思われる気持ちを抑え、医療を取り巻く立ち位置を俯瞰し産業界におけるIT技術を医療ITシステムへ取り込んでいる実践例を語っていただきました。これからは、医療分野で実践された「人の命を最重要視する医療IT関連技術」を成功事例の裏付け

とし、日本の産業界、ひいては世界の産業界へフィードバックしていきたいとの熱いメッセージをいただきました。



白鳥義宗氏

次に、三重県桑名市長 伊藤徳宇氏の名代として桑名市役所 市長公室ブランド推進課の川地尚武氏に講演いただきました。「まちを開く〜桑名市が進める『地方創生』と『公民連携』について」と題し、大都市周辺に位置した地理的優位性の高い恵まれたまちである桑名市の「地方創生」と「公民連携」について語っていただきました。

2016年に開催される伊勢志摩サミット関連事業で桑名市が「ジュニアサミット」の開催地に決まりました。まさに「地方創生」の活動の成果の一つと言えます。また、桑名市を舞台とした映画製作の予定もあるとのことで、中部ブランチャとの関わりについてもお話いただきました。



川地尚武氏

最後の講演は、三菱航空機株式会社 執行役員コーポレート本部長 岩佐一志氏。講演テーマは「国産旅客機MRJを世界の空へ!」でした。奇しくもセミナー開催日の約2週間前に名古屋空港でMRJの華々しい初飛行があり、セミナー前日にMRJホームページにアップされたばかりの初飛行シーンの動画をセミナー会場でも上映していただきました。上映

## ■PMI日本支部中部ブランチャ設立記念セミナー 開催報告

終了後しばらくの間、会場内が静けさに包まれていました。会場の皆さんが初飛行シーンの感動の余韻に浸っていた瞬間です。岩佐氏ご自身もMRJ初飛行に立会い、感心、感激、感動、感嘆、感涙、そして感謝の気持ちを抱かれたとのこと。MRJは中部地域のみならず日本の航空機産業界の期待を担っています。ますます、中部地域、そして日本経済が成長する兆しを感じ、勇気付けられました。



岩佐一志氏

以上、産・官・学のリーダー3名の方々からお話しをいただき、中部地域の元気な活動を再認識することができました。講演者の皆様、熱いメッセージを発信いただき、ありがとうございました。

おかげさまで、当日のセミナーは定員の150名に達しました。セミナーへの参加者をはじめ、セミナーへの勧誘活動を通じて、多くの方々に中部ブランチャの設立を告知・披露することができました。これからも中部ブランチャの活動にご期待ください。

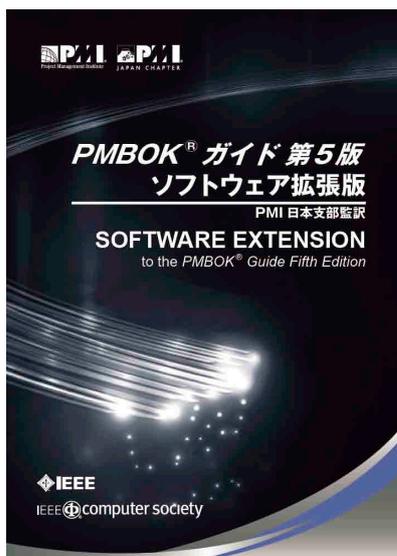


セミナーの後は場所を変えて50名で交流会を行いました。ご来賓、講演者の全員に参加いただき、一般参加者、PMI日本支部関係者、セミナー・スタッフが一緒になり楽しくも有意義な時間を過ごしました。来賓、講演者からは、セミナー会場とは雰囲気の違い、温かいメッセージも発信していただきました。

最後に、PMI日本支部中部ブランチャ設立記念セミナーに参加いただいた皆様、ボランティアでセミナー運営に携わっていただいたスタッフの皆様、バックでセミナー運営の支援をいただいたPMI日本支部事務局の皆様にご心より感謝いたします。

# Review / 書評・論評

## ■ PMBOK®ガイド 第5版 ソフトウェア拡張版 のご紹介



### ■ はじめに

ソフトウェア開発プロジェクトへPMBOK®ガイドを拡張して適用するためのガイドである、Software Extension to the PMBOK® Guide Fifth Edition が2013年9月にリリースされてから2年が経過しましたが、このたび、PMI日本支部会員ボランティアによる翻訳・監修チームの皆さんの貢献により、待望の日本語訳「PMBOK®ガイド 第5版 ソフトウェア拡張版」が完成いたしました。

PMI日本支部Webサイトのオンライン書籍販売サービスで、お買い求めいただけます。

販売価格は書籍販売サービスのご案内をご覧ください。  
(2015年12月21日 発売開始)

### ■ PMBOK®ガイド 第5版 ソフトウェア拡張版の特徴

この「PMBOK®ガイド 第5版 ソフトウェア拡張版」には以下のような特徴があります。

- PMI と IEEE Computer Society が共同で開発した、ソフトウェア開発のプロジェクトマネジメント標準ガイド

- ソフトウェア・プロジェクトのマネジメントに関して、プロセス、ツール、技法、語彙を拡張・詳細化しPMBOK®ガイドを補完
  - ・ PMBOK®ガイドと同じ構成  
相当するセクション間で相互参照が可能
  - ・ インput、ツールと技法、アウトputをソフトウェア開発向けに改訂  
(PMBOK®ガイドと同じ、変更、新規追加、が分かる概要表)
- ソフトウェア開発・保守の内製・外注や技術開発プロジェクトに適用可能
- ウォーターフォール（予測型）からアジャイル（適応型）まで、多様な開発プロジェクトに対応
- 最近のソフトウェア開発で一般化しているアジャイルの要素に広く言及  
例：バーンダウン・チャート、ベロシティー、ユーザー・ストーリー
- ソフトウェア開発の特徴を反映した要素、用語  
例：アクティビティ指向WBS、情報セキュリティ、アーキテクチャー、SLA

### ■ ソフトウェア拡張版の構成

基本構成はPMBOK®ガイド 第5版と同じですが、以下の青字のセクションが追加されています。

#### 1. はじめに

##### 1.9 品質マネジメント

##### 1.10 プロジェクト・ライフサイクルとアジャイル手法

##### 1.11 ソフトウェア拡張版のプロセスの説明：インプット、ツールと技法、およびアウトプット

#### 2 プロジェクト・ライフサイクルと組織

##### 2.3 プロジェクト・チーム

##### 2.3.2 協働的チーム

ソフトウェア拡張版はPMBOK®ガイド 第5版と一緒に使用することが前提になっており、従来と同じ名前のセクショ

■ **PMBOK®ガイド 第5版 ソフトウェア拡張版** のご紹介

ンでは、ソフトウェア開発のプロジェクトマネジメントに焦点を絞った記述になっています。また、ソフトウェア開発以外のプロジェクトマネジメントと共通する内容については、*PMBOK®ガイド 第5版*を参照するようになっています。

■ **PMBOK®ガイド 第5版 ソフトウェア拡張版が対象とする主な読者**

- ソフトウェア開発プロジェクトのマネジメント・プロセスを改善したい
- ウォータフォール文化の組織にアジャイルを導入したい
- PMOをアジャイルに対応させたい
- 各プロジェクトがウォータフォールとアジャイルのどちらが適しているか判断したい

- ソフトウェア開発プロジェクトの品質マネジメントを改善したい
  - ソフトウェア開発組織を改革したい
  - ソフトウェア開発人材をビジネス戦略に沿って育成したい
  - ソフトウェア開発のリスクマネジメントを強化したい
- 等々、ソフトウェア開発のプロジェクトマネジメントにおける課題を日頃から感じているすべての方に必携のガイドです。

*PMBOK®ガイド 第5版*とペアにして、ソフトウェア開発のプロジェクトマネジメントのバイブルとしてご使用ください。

# PM Calendar / PM カレンダー

PMI日本支部のイベントならびにPM教育関連セミナーなどの案内です。  
詳しくは、PMI日本支部のWebサイトをご参照ください。

【ホームページにて公開中】

## ■ PMI日本支部関連セミナー

### ● 1月度 月例セミナー

- 相手を動かす！ メールコミュニケーション術  
～意図を正確に伝え、ビジネスを加速させるメールの書き方～
- 日時：1月22日(金) 19:00～21:00
  - 場所：アクセス渋谷フォーラム
  - 2PDU

### ● アジャイルプロジェクトマネジメントの基礎

- 日時：2月2日(火) 9:30～18:00
- 場所：PMI日本支部セミナールーム
- 7PDU

### ● 2月度 月例セミナー

- 批判的思考を活かしたプロジェクト・マネジメント  
～グローバル人材に求められる批判的思考の養成テクニック～
- 日時：2月26日(金) 19:00～21:00
  - 場所：アクセス渋谷フォーラム
  - 2PDU

### ● 月例セミナー 開催日程 (予定)

- 3月18日(金)
- 4月22日(金)
- 5月20日(金)
- 6月10日(金)

## ■ PMI日本支部関連イベント

### ● PMI日本フォーラム2016 (予定)

- 日時：2016年7月9日(土)・10日(日)
- 場所：学術総合センター (東京・神保町)

### ● PMI Japan Festa 2016 (予定)

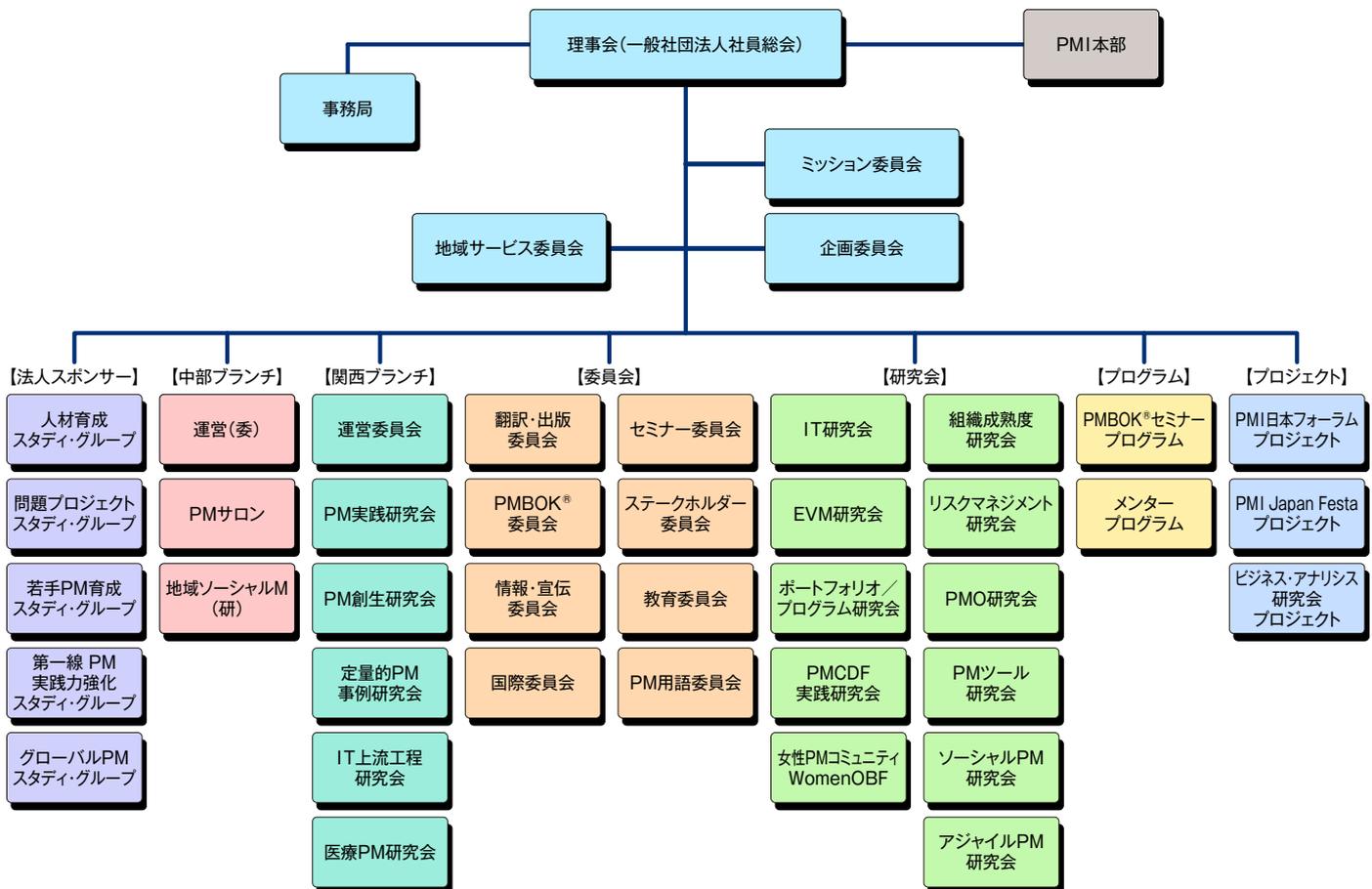
- 日時：2016年11月5日(土)・6日(日)
- 場所：慶應義塾大学日吉キャンパス  
協生館藤原洋記念ホール (横浜市)

\*なお、イベント、セミナー、コースなどは、諸般の事情により変更または中止される場合があります。  
PMI日本支部ホームページで確認をお願いいたします。(https://www.pmi-japan.org/event/)

# Fact Database / データベース

PMI日本支部やPMP®資格取得者に関する最新情報をお届けします。

## ■ 支部活動 (2015年12月現在)



## ■ 理事一覧 (2015年12月現在)

会長	: 奥澤 薫 (KOLABO)
副会長	: 片江 有利 (株式会社プロシード)
理事 (ミッション担当)	: 端山 毅 (株式会社NTTデータ ユニバーシティ)
理事 (マーケティング・会員担当)	: 徳永 幹彦 (株式会社日立インフォメーションアカデミー)
理事 (マーケティング・会員担当)	: 武上 弥尋 (日本アイ・ビー・エム株式会社)
理事 (研究担当)	: 当麻 哲哉 (慶應義塾大学大学院)
理事 (教育担当)	: 本間 利久 (北海道大学)
理事 (教育担当)	: 中嶋 秀隆 (プラネット株式会社)
理事 (渉外担当)	: 杉村 宗泰 (日本マイクロソフト株式会社)

理事（社会貢献担当）	：高橋正憲（PMプロ有限公司）
理事（社会貢献担当）	：麻生重樹（日本電気株式会社）
理事（広報・宣伝担当）	：竹内正興（一般財団法人国際開発センター）
理事（財政担当）	：三嶋良武（株式会社三菱総合研究所）
理事（地域担当）	：神庭弘年（神庭PM研究所）
理事（地域担当）	：木下雅裕（ニッセイ情報テクノロジー株式会社）
理事（コンピテンシー担当）	：福本伸昭（日本アイ・ビー・エム株式会社）
理事（コンピテンシー担当）	：除村健俊（株式会社リコー）
監事	：渡辺善子
監事	：平石謙治

## ■最新の会員・資格者情報（2015年10月31日現在）

会員数		資格保有者数								
		PMP®		PMI-SP®	PMI-RMP®	PgMP®	PMI-ACP®	PfMP®	PMI-PBA®	CAPM®
PMI本部	日本支部	世界全体	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住
475,899人	3,237人	678,619人	31,607人	4人	5人	4人	16人	1人	1人	81人

## ■行政スポンサー（2015年12月現在）

- ・三重県 桑名市

## ■法人スポンサー 一覧（114社、順不同、2015年12月現在）

- ・TIS株式会社
- ・日本アイ・ビー・エム株式会社
- ・株式会社NSD
- ・株式会社プロシード
- ・株式会社インテック
- ・キャノンITソリューションズ株式会社
- ・日本電気株式会社
- ・株式会社ジェーエムエーシステムズ
- ・アイアンドエルソフトウェア株式会社
- ・株式会社NTTデータ
- ・日本マイクロソフト株式会社
- ・プラネット株式会社
- ・株式会社建設技術研究所
- ・日本ユニカシステムズ株式会社
- ・株式会社クレスコ
- ・ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社
- ・日本ヒューレット・パカード株式会社
- ・株式会社アイ・ティー・ワン
- ・コンピューターサイエンス株式会社
- ・株式会社タリアセンコンサルティング
- ・TDCソフトエンジニアリング株式会社
- ・株式会社大塚商会
- ・日本プロセス株式会社
- ・株式会社NTTデータ関西
- ・日本ユニシス株式会社
- ・Kepner-Tregoe Japan, LLC.
- ・JBCC株式会社
- ・株式会社富士ゼロックス総合教育研究所

- 日本アイ・ビー・エム・ビズインテック株式会社
- 株式会社アイテック
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
- 株式会社日立インフォメーションアカデミー
- 情報技術開発株式会社
- 富士ゼロックス株式会社
- アイシンク株式会社
- 千代田システムテクノロジー株式会社
- 三菱総研DCS株式会社
- ソニー株式会社
- 東芝テック株式会社
- 三菱スペース・ソフトウェア株式会社
- 株式会社三菱総合研究所
- NTTデータアイ株式会社
- 新日鉄住金ソリューションズ株式会社
- 株式会社日立ソリューションズ
- 日本自動化開発株式会社
- 日揮株式会社
- 株式会社野村総合研究所
- 株式会社アイ・ティ・イノベーション
- NECネクサソリューションズ株式会社
- 株式会社三技協
- 株式会社JSOL
- NEC ネットエスアイ株式会社
- リコーITソリューションズ株式会社
- ニッセイ情報テクノロジー株式会社
- 株式会社RINET
- 株式会社リコー
- 株式会社システム情報
- 住友電工情報システム株式会社
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
- 株式会社マネジメントソリューションズ
- トップンエムアンドアイ株式会社
- PMアソシエイツ株式会社
- 株式会社日立製作所
- 株式会社システムインテグレータ
- 日本ビジネスシステムズ株式会社
- コベルコシステム株式会社
- 日本電子計算株式会社
- 富士電機株式会社
- 株式会社日立システムズ
- 株式会社神戸製鋼所
- 日本証券テクノロジー株式会社
- 株式会社リクルートテクノロジーズ
- クオリカ株式会社
- 株式会社エクサ
- International Institute for learning - Japan 株式会社
- 株式会社ラック
- ニューソン株式会社
- 三菱電機株式会社
- TAC株式会社
- 日本情報通信株式会社
- 日立INSソフトウェア株式会社
- 株式会社シグマクス
- アーケイディア・コンサルティング株式会社
- 株式会社TRADECREATE
- 株式会社日本ウィルテックソリューション
- システムスクエア株式会社
- 株式会社アイ・ラーニング
- 株式会社トヨタコミュニケーションシステム
- 東芝インフォメーションシステムズ株式会社
- 株式会社エンラプト
- Innova Solutions, Inc.
- 株式会社ワコム
- 株式会社HGST ジャパン
- NCS & A株式会社
- 日本システムウエア株式会社
- 日立物流システム株式会社
- SCSK株式会社
- プライスウォーターハウスクーパース株式会社
- アクシスインターナショナル株式会社
- クインタイルズ・トランスナショナル・ジャパン株式会社
- 株式会社東レシステムセンター
- ビジネステクノクラフツ株式会社
- 株式会社シティアスコム
- 株式会社オーグス総研
- 損保ジャパン日本興亜システムズ株式会社
- 株式会社エル・ティー・エス
- グローバルナレッジネットワーク株式会社
- Hansoft株式会社
- 株式会社日立産業制御ソリューションズ
- 株式会社EnMan Corporation

- MS & ADシステムズ株式会社
- 日本クイント株式会社
- 第一生命保険株式会社
- リコージャパン株式会社

## ■アカデミック・スポンサー 一覧 (33教育機関、順不同、2015年12月現在)

- 産業技術大学院大学
- 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
- サイバー大学
- 芝浦工業大学
- 金沢工業大学
- 九州大学大学院芸術工学府デザインストラテジー専攻
- 広島修道大学経済科学部
- 北海道大学 大学院情報科学研究科
- 山口大学大学院技術経営研究科
- 筑波大学大学院システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
- 早稲田大学 ビジネススクール
- 早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科
- 公立大学法人 広島市立大学 情報科学部
- 国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
- 北海道大学 サステイナビリティ学教育研究センター
- 大阪大学 大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
- 愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
- 国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
- 学校法人中部大学 経営情報学部
- 京都光華女子大学
- 鹿児島大学産学連携推進センター
- 中央大学 文学部社会情報学専攻
- 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
- 京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究支援センター
- 東京工科大学大学院 コンピュータサイエンス専攻
- 北海道情報大学
- 山口大学工学部知能情報工学科
- 川崎医療福祉大学医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科および大学院医療秘書学専攻
- 青山学院大学 国際マネジメント研究科
- 公立大学法人 公立はこだて未来大学
- 大阪府立大学 21世紀科学研究機構 産学協同高度人材育成センター
- 慶應義塾大学・理工学部・管理工学科・飯島研究室
- 就実大学 経営学部

# Editor's Note / 編集後記

執筆者の皆さまへ。お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございました。

- 今号のトップは、本年10月1日に就任したPMI日本支部の新事務局長 吉田一弥からのご挨拶です。
- 本年11月7日・8日の二日間で延べ800名近くの方々にお越しいただいた「PMI Japan Festa 2015」。本イベントの企画・運営を担当したPMI日本支部セミナー委員会メンバーから、8名の講師による講演の概要を掲載しました。
- 本年11月14日に、PMI日本支部の中部地域の活動を強化する拠点として中部ランチが設立されました。これを記念して11月28日に盛大に開催された「中部ランチ設立記念セミナー」の様子を、中部ランチ運営委員会 井奈波誠氏からご報告いただきました。
- PMI日本支部会員ボランティアによる翻訳・監修チームの皆さんの貢献により、「PMBOK®ガイド 第5版 ソフトウェア拡張版」が完成し、2015年12月21日発売開始しました。内容をご紹介します。

## ニューズレター編集担当から読者の皆様へお願い

皆さまからの書評、論評、トピックス、セミナー受講レポート、プロジェクト体験記、PMP認定試験受験体験記などを募集しています。PMI日本支部事務局宛てにお送りください。

今年も一年、大変お世話になりました。

来年もPMI日本支部をどうぞよろしくお願ひ致します。

### PMI日本支部ニューズレター Vol.65 2016年1月発行

編集・発行：PMI日本支部 事務局

〒103-0008 東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階

TEL：03-5847-7301 FAX：03-3664-9833

E-mail：info@pmi-japan.org

ホームページ：https://www.pmi-japan.org/

(非売品)